

一 教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画に関すること
(施行規則第 22 条の 6 第 1 号)

【教員養成の目標】

子ども教育学科における人材育成（教員養成）の目標は、「豊かな人間性と国際社会に即応できる独創性を備え、すぐれた教育能力や教養を身につけ、人々の生活の充実と教育の発展に寄与することができる教員を育成する」こととしています。

【目標を達成するための計画】

これらの目標を達成するために、次の具体的な資質や能力を備えた教員を育成することとし、教育課程における授業科目との関連性を明確にしています。

卒業						
学位：短期大学士（子ども教育） 取得可能な免許・資格：幼稚園教諭二種免許状、保育士資格、小学校教諭二種免許状、認定ベビーシッター資格、レクリエーション・インストラクター資格						
ディプロマ・ポリシー （学位授与の方針）	豊かな人間性・社会性・教養		専門的知識や技能		実践的能力・表現コミュニケーション力	
	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5	DP 6
3 年	人を尊重し、豊かな人間性と教養を備えた人として行動することができる。	保育者・教育者としての自覚をもち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。
	教職実践演習（幼・小） 特別支援教育概説 子ども家庭支援論 教育相談 未来デザインⅤ・Ⅵ 卒業論文 A（論文） 子ども教育特別講座 1 ボランティア活動とキャリア教育	保育実習（保育所）Ⅱ 保育実習（施設）Ⅲ 教育実習（小学校） レクリエーション（理論）	教育の組織と運営 英語 家庭科指導法 在宅保育論 レクリエーション（実技）	子ども理解の方法 保育実践演習 子ども教育特別講座 4 子ども教育特別講座 5 子ども教育特別講座 6 特別活動と総合的な学習の指導法 教育と ICT 活用 外国語の指導	保育内容総論 事前事後の指導（保育所）Ⅱ 事前事後の指導（施設）Ⅲ 事前事後の指導（小学校） 生活科指導法 音楽科指導法 図画工作科指導法 体育科指導法	図画工作Ⅱ 卒業論文 B（総合表現） 子ども教育特別講座 2 子ども教育特別講座 3
	教職・保育者論 社会福祉 社会 e スポーツ概論 未来デザインⅢ・Ⅳ ボランティア活動とキャリア教育 道徳教育の指導 社会科指導法 Web デザイン	体育Ⅰ（運動） 教育実習（幼稚園） 保育実習（保育所）Ⅰ 保育実習（施設）Ⅰ レクリエーション（理論）	保育の心理学 子ども家庭支援の心理学 子どもの食と栄養 子どもの生活習慣 乳児保育Ⅰ 子どもと人間関係 子どもと言葉 国語（書写を含む） 算数・理科・生活・家庭 国語科指導法・理科指導法 レクリエーション（実技）	乳児保育Ⅱ 社会的養護Ⅱ 障害児保育 発達と障害 ピアノⅡ（弾き歌いと伴奏） 子どもと健康 子どもと環境 算数科指導法	保育内容（環境） 事前事後の指導（幼稚園） 事前事後の指導（保育所・施設）Ⅰ 生徒指導とキャリア教育	音楽Ⅱ（うたと楽器） 図画工作Ⅰ 体育Ⅱ（ダンス） 子ども文化 子どもと表現
情報リテラシー プログラミング基礎 憲法 児童文学 地域社会概論 国際理解教育 データサイエンス 動画クリエイター入門 保育原理Ⅱ（計画と評価） 子どもと家庭の福祉 未来デザインⅠ・Ⅱ ボランティア活動とキャリア教育	運動と健康Ⅰ 運動と健康Ⅱ 地域の子育てと保育体験 レクリエーション（理論）	子どもの保健 教育原理とカリキュラム論 教育の心理 保育原理Ⅰ（理念） 教育方法（理論と実践） レクリエーション（実技）	社会的養護Ⅰ 子どもの健康と安全 保育教材研究（うたと手遊び） 音楽Ⅰ（理論と基礎実技） ピアノⅠ（ピアノの基礎）	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 保育内容（言葉） 保育内容（人間関係） 保育内容（健康）	保育内容（表現）Ⅰ 保育内容（表現）Ⅱ	
1 年	情報リテラシー プログラミング基礎 憲法 児童文学 地域社会概論 国際理解教育 データサイエンス 動画クリエイター入門 保育原理Ⅱ（計画と評価） 子どもと家庭の福祉 未来デザインⅠ・Ⅱ ボランティア活動とキャリア教育	運動と健康Ⅰ 運動と健康Ⅱ 地域の子育てと保育体験 レクリエーション（理論）	子どもの保健 教育原理とカリキュラム論 教育の心理 保育原理Ⅰ（理念） 教育方法（理論と実践） レクリエーション（実技）	社会的養護Ⅰ 子どもの健康と安全 保育教材研究（うたと手遊び） 音楽Ⅰ（理論と基礎実技） ピアノⅠ（ピアノの基礎）	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 保育内容（言葉） 保育内容（人間関係） 保育内容（健康）	保育内容（表現）Ⅰ 保育内容（表現）Ⅱ

----- 小学校教諭二種免許状取得に関わる科目

----- 自由科目（レクリエーション・インストラクター資格/認定ベビーシッター資格関連科目/プロフェッショナル科目）

二 教員の養成に係る組織及び教員の数、各教員が有する学位及び業績並びに各教員が担当する授業科目に関すること。

(施行規則第 22 条の 6 第 2 号)

【教員の養成に係る組織及び教員の数】

幼二種免

有明教育芸術短期大学（教職課程に係る教員組織・教育の基礎的理解に関する科目等）
子ども教育学科
幼稚園教諭二種免許状
専任教員数 3 人（必要専任教員数 3 人）
教員名及び担当授業科目
①信太 朋子 准教授 【教職実践演習（幼・小）、事前事後の指導（幼稚園）、教育実習（幼稚園）】
②池口 洋一郎 教授 【発達と障害】
③石井 友行 教授 【教職・保育者論、教育方法（理論と実践）】

有明教育芸術短期大学（教職課程に係る教員組織・領域及び保育内容の指導法に関する科目①）
子ども教育学科
幼稚園教諭二種免許状
専任教員数 4 人（必要専任教員数 4 人）
教員名及び担当授業科目
①有福 一昭 教授 【子どもと表現】
②山田 麻美子 教授 【子どもと表現】
③角杉 美恵子 教授 【子どもと健康】
④赤坂 澄香 教授 【子どもと人間関係】

有明教育芸術短期大学（教職課程に係る教員組織・領域及び保育内容の指導法に関する科目②）
子ども教育学科
幼稚園教諭二種免許状
専任教員数 2 人（必要専任教員数 1 人）
教員名及び担当授業科目
①深澤 瑞穂 教授 【保育内容（環境）】
②菊地 大介 准教授 【保育内容総論】

小二種免

有明教育芸術短期大学（教職課程に係る教員組織・教育の基礎的理解に関する科目等）
子ども教育学科
小学校教諭二種免許状
専任教員数 3 人（必要専任教員数 3 人）
教員名及び担当授業科目
①信太 朋子 准教授 【教職実践演習（幼・小）】
②石井 友行 教授 【教職・保育者論、教育方法（理論と実践）】
③池口 洋一郎 教授 【発達と障害】

有明教育芸術短期大学（教職課程に係る教員組織・教科及び教科の指導法に関する科目①）
子ども教育学科
小学校教諭二種免許状
専任教員数 5 人（必要専任教員数 5 人）
教員名及び担当授業科目
①山田 麻美子 教授 【音楽 I（理論と基礎実技）】
②有福 一昭 教授 【図画工作 I、図画工作 II】
③山本 剛 准教授 【社会】
④新庄 恵子 教授 【英語】
⑤松田 扶美子 准教授 【音楽 I（理論と基礎実技）】

有明教育芸術短期大学（教職課程に係る教員組織・教科及び教科の指導法に関する科目②）
子ども教育学科
小学校教諭二種免許状
専任教員数 1 人（必要専任教員数 1 人）
教員名及び担当授業科目
①長田 信彦 教授 【国語科指導法】

三 教員の養成に係る授業科目、授業科目ごとの授業の方法及び内容並びに年間の授業計画に関すること。

(施行規則第 22 条の 6 第 3 号)

【教員の養成に関する授業科目】

幼二種免

分野	法令指定科目	本学開講科目	必修・選択	単位数	開設学期
免許法66条6関係科目	日本国憲法	憲法	必修	2	1 後
	体育	運動と健康 I	必修	1	1 前
		運動と健康 II	必修	1	1 後
	外国語コミュニケーション	英語コミュニケーション I	必修	1	1 前
		英語コミュニケーション II	必修	1	1 後
情報機器の操作	情報リテラシー	必修	2	1 前	
教育の基礎的理解に関する科目等	教育の基礎理論に関する科目	教育原理とカリキュラム論	必修	2	1 後
		教職・保育者論	必修	2	2 前
		教育の組織と運営	必修	2	2 後
		保育の心理学	必修	2	2 前
		教育の心理	必修	2	1 前
		発達と障害	選択	2	2 後
		特別支援教育概説	必修	2	3 前
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育方法(理論と実践)	必修	2	1 後
		子ども理解の方法	必修	1	3 前
		教育相談	必修	2	3 後
	教職実践に関する科目	事前事後の指導(幼稚園)	必修	1	2 通年
		教育実習(幼稚園)	必修	4	2 前
		教職実践演習(幼・小)	必修	2	3 後
領域及び保育内容の指導法に関する科目	領域に関する専門的事項	子どもと健康	必修	1	2 後
		子どもと人間関係	必修	1	2 前
		子どもと環境	必修	1	2 後
		子どもと言葉	必修	1	2 前
		子どもと表現	必修	1	2 後
	保育内容の指導法 (情報機器及び教材の活用含む。)	保育内容総論	必修	2	3 後
		保育内容(健康)	必修	2	1 後
		保育内容(人間関係)	必修	2	1 前
		保育内容(環境)	必修	2	2 前
		保育内容(言葉)	必修	2	1 前
		保育内容(表現) I	必修	1	1 前
		保育内容(表現) II	必修	1	1 後

小二種免

分野	法令指定科目	本学開講科目	必修・選	単位数	開設学期	
免許法66条6関係科目	日本国憲法	憲法	必修	2	1 後	
	体育	運動と健康 I	必修	1	1 前	
		運動と健康 II	必修	1	1 後	
	外国語コミュニケーション	英語コミュニケーション I	必修	1	1 前	
		英語コミュニケーション II	必修	1	1 後	
	情報機器の操作	情報リテラシー	必修	2	1 前	
教育の基礎的理解に関する科目等	教育の基礎理論に関する科目	教育原理とカリキュラム論	必修	2	1 後	
		教職・保育者論	必修	2	2 前	
		教育の組織と運営	必修	2	2 後	
		保育の心理学	必修	2	2 前	
		教育の心理	必修	2	1 前	
		発達と障害	選択	2	2 後	
		特別支援教育概説	必修	2	3 前	
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳教育の指導	必修	2	2 前	
		特別活動と総合的な学習の指導法	必修	2	3 前	
		生徒指導とキャリア教育	必修	2	2 後	
		教育とICT 活用	必修	1	3 前	
		教育方法(理論と実践)	必修	2	1 後	
	教職実践に関する科目	教育相談	必修	2	3 後	
		事前事後の指導(小学校)	必修	1	3 通年	
		教育実習(小学校)	必修	4	3 前	
	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	教職実践演習(幼・小)	必修	2	3 後
			国語(書写を含む)	選択	2	2 後
			社会	選択	2	2 前
算数			選択	2	2 前	
理科			選択	2	2 後	
生活			選択	2	2 前	
家庭			選択	2	2 前	
英語			選択	2	3 前	
音楽 I (理論と基礎実技)			必修	2	1 前後	
図画工作 I			必修	1	2 後	
図画工作 II			必修	1	3 前	
体育 I (運動)			必修	1	2 前	
体育 II (ダンス)		必修	1	2 後		
各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)		国語科指導法	選択	2	2 後	
		社会科指導法	選択	2	2 前	
		算数科指導法	選択	2	2 前	
		理科指導法	選択	2	2 後	
		生活科指導法	選択	2	3 前	
		家庭科指導法	選択	2	3 前	
	音楽科指導法	選択	2	3 後		
	図画工作科指導法	選択	2	3 後		
体育科指導法	選択	2	3 後			
外国語の指導	選択	2	3 後			

【授業科目ごとの授業の方法及び内容】

四 卒業者の教員免許状の取得の状況に関すること

(施行規則第 22 条の 6 第 4 号)

卒業者の教員免許状の取得状況 (過去 3 年間)

【子ども教育学科】

	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
幼稚園教諭二種免許状	48 人	61 人	58 人
小学校教諭二種免許状	21 人	29 人	20 人

五 卒業者の教員への就職の状況に関すること

(施行規則第 22 条の 6 第 5 号)

卒業者の教員への就職者数 (過去 3 年間)

【子ども教育学科】

卒業年度	学校種別	
	幼稚園	小学校
令和 3 年度	3 人	9 人
令和 4 年度	2 人	17 人
令和 5 年度	6 人	10 人

六 教員の養成に係る教育の質の向上に係る取組に関すること

(施行規則第 22 条の 6 第 6 号)

教員養成の質の向上を目指し、本学子ども教育学科 (3 年制) では次の取り組みを行っています。

- (1) 入学後の新入生オリエンテーション、新入生研修などを通して 3 年間の目標を明確にし、学業への意欲とモチベーションが維持できるよう取り組んでいる。
- (2) 「未来デザイン」(「ライフキャリア演習」)(1 クラス 20~28 名程度のクラスセミナー) では、入学から卒業までの学修の過程を支援し、教職に関する基本的な理解を得られるよう図っている。具体的には、① 課題研究を通して個別およびグループで学習方法を学ぶ、② 自身の考えを持ち他者に伝達する手法を修得する、③ 自ら研究課題を見つけて調査し、その成果をプレゼンテーションする意欲と能力を高めることをねらいとし、3 年間を通して学習課題に主体的に取り組む力を身につけられるよう実施している。

- (3) 2年次に教育実習（幼稚園）、3年次に教育実習（小学校）を実施している。事前事後指導とは別に、学年ごと、実習ごとに説明会を開催して実習に関する全般的な諸指導を行っている。実習終了後は、「未来デザイン」（「ライフキャリア演習」）において実習の体験発表を行ない、省察や改善点を以後の学習に役立てている。
- (4) 「履修カルテ」によって教職科目の省察を行い、「教職実践演習（幼・小）」・「保育実践演習」・「未来デザイン」（「ライフキャリア演習」）に反映させている。「教職実践演習（幼・小）」では、江東区教育委員会の協力を得て区内の幼稚園、小学校への訪問や先生方を大学に招き、あるいは現場に赴いて教育の実情を知る機会を設けている。
- (5) 平成26年度より「実践教育研究会（旧幼児教育研究会）」を発足させ、地域の保育機関や教育機関と保育・教育現場の取り組みや現状について情報交換するとともに、教員養成校における指導のあり方について意見交換を行い、そこで得られた知見を授業改善に反映させている。